



児童会・生徒会による いじめ防止の取組事例集



秋田市立御所野小学校



湯沢市立湯沢南中学校



潟上市立羽城中学校



鹿角市立八幡平中学校



秋田県立能代高等学校



秋田県立比内養護学校たかのす分校

「いじめは人間として絶対に許されないもの」との意識を、学校教育全体を通じて、児童生徒一人一人に徹底し、いじめを許さない学校づくり、学級づくりを進めるためには、児童会・生徒会活動などにおける共感的な人間関係づくりや自発性・自治力の育成が大切です。

秋田県教育委員会では、いじめ問題に対応する際の参考資料として、県内の小・中・高・特別支援学校で、児童会・生徒会がいじめ問題に正面から向き合い、その根絶や未然防止に向けて全力で取り組んでいる様々な実践例を収集し、取組事例集を作成いたしました。

県内の各小・中学校で、児童生徒が主体的にいじめ問題に向き合う取組が一層充実するよう、本事例集を活用していただければ幸いです。

目 次

児童会・生徒会による、いじめの未然防止、いじめの根絶のための取組事例

【小学校】

・大館市立城西小学校	1
・藤里町立藤里小学校	2
・秋田市立御所野小学校	3
・由利本荘市立岩谷小学校	4
・大仙市立大曲小学校	5
・湯沢市立湯沢西小学校	6

【中学校】

・鹿角市立八幡平中学校	7
・大館市立東中学校	8
・潟上市立天王中学校	9
・潟上市立羽城中学校	10
・にかほ市立仁賀保中学校	11
・仙北市立角館中学校	12
・仙北市立西明寺中学校	13
・湯沢市立湯沢南中学校	14

【高等学校】

・秋田県立能代高等学校	15
・秋田県立由利工業高等学校	16

【特別支援学校】

・秋田県立比内養護学校たかのす分校	17
・秋田県立能代養護学校	18

【小学校】

（小学校低学年用）

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、絶対にいじめをしません。

二 私たちは、いじめを見すごさず、みんな力を合わせていじめをなくします。

三 私たちは、思いやりの心で、相手の気持ちを感ぜたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手も大切にします。

五 私たちは、いろいろな人たちとなかよくし、みんなを支える一人になります。

（小学校中・高学年用）

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権をそこなう、許されない行いであることを理解し、絶対にいじをしません。

二 私たちは、いじめを見すごさず、友達や信頼できる人と力を合わせて、いじめがなくなるように行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、友達の喜びや心の痛みを、その人の気持ちになつて感ぜたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人のよいところをたくさん見つけ、自分も相手もかけがえない存在として大切にします。

五 私たちは、生活の仕方や文化、ものの考え方などにちがいがあっても進んで交流し、みんなを支える一人になります。

学 校 名	大館市立城西小学校	児童生徒数	3 2 2 人	学級数	1 5
1 活動名	みんな なかよし ふわふわ言葉いっぱいの学校に！				
2 活動の趣旨	縦割り班で協力しながら活動したり一緒に遊んだりすることを通して、コミュニケーション能力を育み、楽しい学校生活を過ごせるようにする。				
3 活動の概要					
(1) 縦割り班活動					
① なかよし遊び	縦割り班ごと1～6年生全員が楽しめる遊びを決め、普段は一緒に遊ばない異学年の集団で遊ぶ日を設けている。遊びの内容は、班長からの提案を受け、縦割り掃除の反省会で相談して、全員で決めている。11月までに4回実施し、4回目は縦割り班ごとの「なかよし給食」も同じ日に行った。 【新しい縦割りメンバーと「なかよしくりんぱ」】				
② スタート集会（4／27）	「1年生を迎える会」と「前期委員会活動」「前期縦割り班の発足」の三つのスタートを一つに合わせて集会を行った。 代表委員会が計画・運営に当たり、1年生が楽しめて、班のメンバーの協力が必要な簡単に楽しいゲームを考えた。今年度は、「なかよしくりんぱ」「はやくはやく（順列ゲーム）」などを行った。				
③ なかよしコミュニケーションスキル	月に1回程度、異学年間の交流を通して、コミュニケーション能力を高めるために、「あいさつウォークラリー」「バースデーリング」「サイコロトーク」「いいところ探し」など、会話や協力を必要とするゲームを行っている。				
(2) 代表委員会による取組					
① あいさつ運動	1・6年生は合同で、2～5年生は学級ごとに月1回程度、朝のあいさつ運動を行っている。6年生（班長）と一緒にあいさつすることを楽しみに、1年生も元気に運動に参加している。				
② いじめ防止ポスターの作成	代表委員会の提案により、各学級で、学校が居心地のよい場所になる「ふわふわ言葉」を話し合い、その言葉を基にポスターを作成した。				
4 これまでの成果と考えられること	・ 縦割り班でゲームに挑戦したり一緒に遊んだりすることで、協力し助け合うことのよさを実感させることができた。 ・ コミュニケーションを必要とする活動であるため、班の仲間と話し合う機会が多くなった。 ・ 異学年交流を通して、上学年が下学年に優しくお世話してあげる場面を多く見かけるようになった。				
5 今後の課題	・ 作成した「ふわふわ言葉いっぱいの学校にしよう」のポスターを掲示するだけでなく、今後、児童が主体となって、更に有効な活用方法を話し合う必要がある。 ・ みんなが楽しめるように遊びの内容を考慮するなど、相手のことを思いやる行動がとれるように支援していく。 ・ 本校の特色である「コミュニティ・スクール」の機能を生かした活動を、取り入れていきたい。				

学 校 名	藤里町立藤里小学校	児童生徒数	1 1 4 人	学級数	8
1 活動名	「藤小子ども宣言」 ～学校生活を、自分たちの手でよりよいものに！～				
2 活動の趣旨	いじめを生まない学校風土づくりに向け、児童が主体となった活動を展開し、「藤小子ども宣言」の策定を起点とする児童会活動を実行することとした。				
3 活動の概要	(1)「藤小子ども宣言」の策定（9月） 児童会で「藤里小をどんな学校にしたいか」を話し合い、「子ども宣言」としてまとめた。 ① 代表委員会の問題提起 ② 学級会での話し合い ・各学級で、アイディアを出し合い、3～4項目に集約 ③ 後期児童総会での話し合い ・各学級からの意見を出し合い、意見交換 ④ 代表委員会での話し合い ・各学級の意見を集約し、4項目に整理 平成27年度「藤小子ども宣言」 《あいさつ》私たちは、毎日明るく元気にあいさつします。 《学習》私たちは、積極的に手を挙げて発表し、目と耳と心で聞きます。 《友達》私たちは、いじめをなくし、友達と仲良く助け合いながら学校生活を送ります。 《健康》私たちは、さわやかな心ですみずみまでそうじをします。 (2)「藤小子ども宣言」の具現化に向けた取組 全員が仲良く過ごし、いじめのない学校にするために意識して取り組む活動として、次のことを位置付けた。 ① あいさつ運動の継続（5月～） ・明るく元気にあいさつを頑張っている学級を、生活向上委員会が放送で紹介した。 ②「あったかカード」の作成・掲示（10～12月） ・「自分のがんばり」や「友だちへのよい関わり」をカードに記録し、廊下に掲示した。 ③「さわやかハッピーポスト」（11月） ・「友だちのがんばりや思いやりのある行動」を募集し、放送で紹介した。 ④ 縦割り班顔合わせ会の実施（11月） ・自己紹介の後、班のめあてを話し合い、仲良く活動していくことを誓い合った。 ⑤ 児童集会の計画と実行（2月） ・プロジェクト委員会を中心に、全校児童が仲良く楽しく活動できるような集会を企画し、実行することにした。  9月後期児童総会で意見交換				
4 これまでの成果と考えられること	「藤小子ども宣言」に係る取組を通して、主体的・創造的な活動が生まれた。また、「あったかカード」への行動の記録等を通して、生活場面での主体的な判断を大事にする雰囲気が高まった。				
5 今後の課題	いじめを生まない学校風土が育つように、今後も児童の主体的な活動を支えていきたい。また、取組の成果を「児童アンケート」等で継続的に考察し、改善を図っていきたい。				

学 校 名	秋田市立御所野小学校	児童生徒数	6 1 6 人	学級数	2 3
1 活動名	広げよう ハッピーワード ハッピーワードとは、 話して気持ちいい言葉！ 聞いて温かい言葉！				
2 活動の趣旨	(1) ハッピーワードのよさを意識した活動を通して、相手を思いやり、互いに認め合う「共生の心」を育む。 (2) ハッピーワードを広げるための子どもたちの主体的な活動を通して、いじめ等の未然防止に取り組む。				
3 活動の概要	前学期を迎え、児童会スローガン「みんなで協力し合い明るく楽しい学校にしよう」を掲げた。このスローガンを具現化するための一つの方策として、全校を温かい言葉でいっぱいにする事をねらいとした「広げよう ハッピーワード」を行うことにした。				
(1) 活動の時期	7月13日～ 9月 9日 11月16日～12月 4日 12月 7日～12月18日				
(2) 参加児童	全校児童を対象にして一斉に取り組む。				
(3) 活動内容	①「広げよう ハッピーワード」の説明 (計画委員会→全校) ・計画委員が、全校集会で、ハッピーワードとはどのような言葉なのかを説明する。 ・代表委員が、自分のクラスで、活動のねらいを説明する。低学年には、代表委員による説明に加え、学級活動で担任が補足する。 ②「広げよう ハッピーワード」1 (代表委員会→全校) ・代表委員が、ハッピーワード週間に、ハッピーワードの積極的な使用を呼びかける。 ③「広げよう ハッピーワード」2 (各クラス) [各クラスごとに取り組む内容を決め、実践] A「ハッピーワードポスター」 言われてうれしかったハッピーワードをポスターにして掲示する。 B「ハッピーワードツリー」 ハッピーワードを言われた時の気持ちを葉に書き、大きな木に育てる。 C「今日のハッピーワード」 友達から言われたハッピーワードを帰りの会で紹介し合う。 D「ハッピーワードカード」 ハッピーワードを言ってくれた友達のカードに「ありがとうシール」をはる。 E「ハッピーワード振り返り」 友達の振り返りにハッピーワードで返す。 ④「広げよう ハッピーワード」3 (計画委員会→全校) ・計画委員会がハッピーワードカードとポストを準備し、全校児童に記入、投函してもらう。カードには、ハッピーワード、言ってくれた友達、そのときの気持ちを書くようにする。 ・計画委員がポストに投函されたカードを、給食時間に、全校放送で紹介する。 ⑤「広げよう ハッピーワード」4 (代表委員会→各クラス) ・代表委員がクラスで行った活動内容(③のA～E)を確認し、再度クラスで取り組む内容を決め、実践する。				
4 これまでの成果と考えられること	児童会による提案から上記の活動を展開したことにより、子ども同士の主体的な関わりが全校に広がるとともに、相手の立場に立って考えたり、行動したりすることができるようになった子どもが増えた。今後は、ハッピーワードとは、どんな言葉であるのか、言葉がもつ力について自分なりに考えながら友達との関わりを深めていくように活動を継続させていきたい。				
5 今後の課題	子どもたちが集めたハッピーワードの提示の仕方や活用の仕方の検討が必要である。また、子ども主体の活動をマンネリ化しないようにしながら、自分たちで考え、よりよい学校を築き上げようとする心を育みたい。				



【全校にハッピーワードを呼びかける代表委員】

学 校 名	由利本荘市立岩谷小学校	児童生徒数	160人	学級数	8
1 活動名	「笑顔・やさしさ・思いやりいっぱい岩谷小」を目指して				
2 活動の趣旨	本校では、平成26年度より学校教育目標を「いきいき生きる わくわく学ぶ やさしくかかわる 岩谷の子ども」と改定した。特に、「やさしく」に関する「思いやりの心」「規範意識」「自尊感情」の意識向上を重点課題として共通理解し、実践を積み重ねているところである。 今年度は、『やさしく』かかわる岩谷の子ども」実現のため、また、いじめの未然防止につながるため、児童自身が児童会テーマを意識して活動できるように児童会の主体的な取組を推進することとした。				
3 活動の概要	(1) あいさつ運動 ① 4月に代表委員会で今年度の児童会テーマを話し合い、「笑顔・やさしさ・思いやりいっぱい岩谷小」と決定する。 ② 5月に運営委員会で児童会テーマに即した活動として、あいさつ運動を企画する。児童同士が自ら進んであいさつを交わし合えるアイデアとしてキャラクター「おはようさぎ」を作製する。 ③ 6月1日～12日の期間中に運営委員児童があいさつ運動を実施する。児童玄関、2階ホール、体育館前に運営委員が立ち、「すてきなあいさつ」を合い言葉にあいさつを行う。 ④ 6月9日に児童総会を行い、3年生以上の全児童で児童会テーマや各学級ごとのあいさつ運動の状況について確認し合う。また、児童会として全校で頑張ることを「あいさつ・思いやりある言葉遣い」と決める。 (2) 「アサーション言葉」の奨励放送 ・「やさしくかわり合う」ためのコミュニケーションスキルを会話形式で示す期別の重点「アサーション言葉」を全校児童で確認し合う。 ・毎朝放送委員の児童と担当職員がその日の「アサーション言葉」の奨励放送の内容について確認し合い、朝の放送（朝読書活動前）で対話形式の模擬放送を行う。 ・期別「アサーション言葉」 - I期（4～5月）：名前を言ってからあいさつしよう。 「〇〇さん、おはよう。」「〇〇先生、おはようございます。」 - II期（6～9月）：自分から友だちをさそってみよう。 「〇〇さんもおいでよ。いっしょに遊ぼう。」 「〇〇さん、いっしょに☆☆☆に行かない？」 - III期（10～12月）：友だちのがんばりをほめてみよう。 「〇〇さん、すごいね。」 「〇〇さん、上手だね。わたし（ぼく）にも教えてね。」 - IV期（1～3月）：感謝の気持ちを言葉にして伝えよう。 「〇〇さん、□□してくれてありがとう。」				
4 これまでの成果と考えられること	・アサーション言葉であいさつしたり、関わったりできる児童が増えてきている。 ・休み時間に誘い合って遊ぶ児童が増えてきており、交友関係が広がってきている。また、以前より外遊びが盛んになってきた。 ・男女が休み時間に一緒に遊ぶ姿が見られるようになり、男女の関わりがよくなってきた。				
5 今後の課題	・休み明けの校内での元気なあいさつ、地域での自主的なあいさつの定着度はまだまだと言える。 ・アサーション言葉をコミュニケーション・スキルとして意識できるようになってきた様子はいくつかあるが、児童一人一人にそれを活用しようとする態度が定着しているかどうかは不明である。児童総会で各学級のあいさつ運動活動例を紹介し合ったように、人との「よりよい関わり合い」の仕方について児童会主体で取り上げ、話し合う場を設定していきたい。				



【自作のキャラクター「おはようさぎ」】

学 校 名	大仙市立大曲小学校	児童生徒数	788人	学級数	32
1 活動名	『楽しくて、うれしくなければ曲小じゃない』を合い言葉に				
2 活動の趣旨	『楽しくて、うれしくなければ曲小じゃない』を合い言葉に、様々な活動や場面で自分たちに何ができるのかを考え行動させることで、学校生活を充実したものにする。また、それらの活動を通して、自尊感情や自己有用感を育て、いじめの未然防止を図る。				
3 活動の概要	(1) 全校縦割り活動 全校児童を84の縦割りグループに編成し、次の活動を年間を通して行う。異学年交流を通して、上学年にはリーダー性や責任感、思いやりの気持ち等を育て、下学年においては対人関係の苦手意識を解消し、望ましい人間関係の確立を図る活動である。 ・縦割り遊び（年3回） ・縦割りはじめましての会（5月） ・鹿島流し鹿島人形作り（6月） ・なかよしウォークラリー（10月） ・スノーアートフェスティバル（2月） ・6年生を送る会（3月） (2) 出席番号あいさつ運動 運営委員会が中心になって行っていたあいさつ運動を、もっと多くの人に関わってもらい、よりよいあいさつが広がることをねらった運動。例えば、9月7日であれば、各クラスの出席番号7番の児童が上学年、下学年玄関付近に集まり、協力してあいさつを呼びかけた。 (3) 「楽しい、うれしいニュース」の発行、昼の校内放送での紹介 各学級から、または随時気付いた児童や教師から寄せられる「楽しい、うれしいニュース」を運営委員会が集約する。そして、児童会便りや校内放送で、個人や学級のがんばり、自慢等を紹介することで、お互いのよさを認め合い、喜び合う活動にしている。 (4) 「学級NGワードの作成、そして、うれしいワードを広げよう」 学級内で、いじめや友達関係のトラブルになるような言葉を考えNGワードを決め、絶対に使わないという心情を養う。また、そこから、うれしいワードを広げる活動へと発展させ、いじめを根絶させ、よりよい学級を築いていこうとする態度を育てる。				
4 これまでの成果と考えられること	年2回、県総合教育センターの「いじめ自己診断表」を活用していじめアンケートを行っている。その結果によると、本校児童は自己有用感に関するポイントが高い。平成27年度前期も31.7%を示し、県の平均を上回っている。いじめはゼロではないが、いじめアンケートや周りの友だちからの教師への訴えによるいじめの早期発見、組織を生かした対応ができており、深刻化することなく解決できることが多い。				
5 今後の課題	本校の児童会では、これまで、「いじめ」という言葉を前面に出し、直接いじめに係るような児童会活動を行ってはいない。しかし、いじめにつながるような言動をいともたやすくしてしまう児童の実態も見えてきた。もっと児童自身に、「いじめは絶対にしてはいけない、いじめゼロをめざそう」という意識を高めるため、具体的な活動をしかける必要があると考える。今後、いじめ根絶のために、「ぼくはこんなことをします」というような行動宣言やいじめ防止標語の作成等を児童と一緒に考えながら、自治的、自発的な児童会活動につなげていけるように支援していきたいと考えている。				



【なかよしウォークラリーの一場面】
町内を歩きながら仲良くクイズやゲームをした後、グラウンドにもどって昼食を食べ、楽しそうに遊ぶ子どもたち

学 校 名	湯沢市立湯沢西小学校	児童生徒数	4 6 3 人	学級数	1 8
-------	------------	-------	---------	-----	-----

1 活動名 湯沢西小いじめ0（ゼロ）運動

2 活動の趣旨

本校では、「心と体の元気チェック」「学校生活意識調査」による年5回のアンケート調査によって、児童の学校や家庭での生活状況を把握している。7月には学校生活意識調査を行ったが、その中で、「いじめとまでは言えないが乱暴なことをされた」「悪口を言われた」と答えた児童が、5・6年生180人中23人いることがわかった。そこで高学年の児童を対象に集会を開き、アンケート結果を伝えたところ、児童の中に、何とかしなければいけないという意識が湧き上がってきた。高学年から湧き上がったこのいじめ0への思いを全校に広め、児童が主体的にいじめの芽を摘み取ろうとする意識を醸成しようとしたものが、この「いじめ0運動」の取組である。

3 活動の概要

(1) 活動の骨子をつくる

高学年6学級でいじめ0にするためにどうしたらいいかを話し合い、そのアイデアをもち寄り、臨時の代表委員会を開く。そこで話し合われたことは次の2点である。

- ①いじめの芽を摘み取る「いじめ0運動」に全校で取り組むこと。
- ②生活安全委員会が中心になって、いじめ0に関する活動をしていくこと。

(2) いじめアンケートの実施と分析

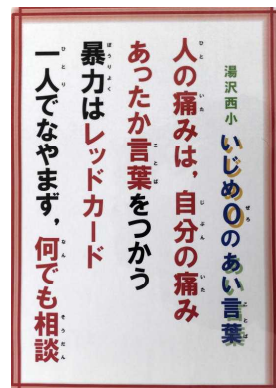
生活安全委員会がまず最初に取り組んだのは、全校のみんなはどんなことをいじめと考えているのか調べることであった。このアンケートにより、暴力や暴言の他に、命令や一方的に攻撃されるといふ高圧的な行為、大勢から差別されたりしつこく悪口を言われたりするという心理的な行為をいじめと考えていることがわかった。

(3) いじめ0の合い言葉をつくる

いじめアンケートの結果分析から、いじめの芽を摘むためのキャッチフレーズをつくり、いじめ0の合い言葉として全校で注意し合おうというアイデアが生活安全委員会の話し合いから出された。合い言葉づくりの過程では、

- ①いじめられている人の周りの人が、その人の辛さを自分の事と思うことが大切だ。
- ②悪口や暴言は「あったか言葉」を使うようにしていれば自然になくなるのではないか。
- ③暴力は絶対に許されないことだから、サッカーのレッドカードという言葉を取り入れると、みんなが気を付けるのではないか。
- ④いじめには決まったものがないので、辛い、嫌だと思ったときにはとにかく信頼できる人に相談することが大切だ。

といった意見が出され、最終的に4つの合い言葉に練り上げた。



【いじめ0の合い言葉】

(4) いじめ0集会の実施

10月23日に全校集会を開き、いじめ0に向けた集会を行った。集会では生活安全委員会がいじめの場面を劇にして発表し、フロアーの児童から意見を求めた。その後、全校でいじめ0の合い言葉を復唱した。集会後、全校児童が集会の感想を書き、いじめ0への意識を高めた。

4 これまでの成果と考えられること

この集会後、6年生の女子が友達同士のトラブルについて、養護教諭に相談に来たり、心を傷つける言動に対して子ども同士が合い言葉を使って解決したりしようとする姿が見られるようになった。また、いじめ0集会で、いろいろないじめの例を演じて見せたり、いじめの種類を説明したりしたことで、児童間にいじめに対する判断の基準ができたことも成果に挙げられる。



【いじめ0集会の様子】

5 今後の課題

集会を行い、いじめ0に向けた気持ちを高め、合い言葉を掲示して校内環境を整備した。しかし、これだけでいじめ0に向けた気持ちの盛り上がりを維持していくことは難しい。あいさつ運動や標語募集など、児童による委員会活動を工夫させたり、縦割り活動を生かして児童相互の関係を深めたりするなど、継続的な取組が必要である。

今回は校内での啓発活動だったが、今後は保護者、地域を巻き込み、児童を見守る目を増やしていかなければならないと感じている。

【中学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。

五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学 校 名	鹿角市立八幡平中学校	児童生徒数	99人	学級数	5
1 活動名	いじめ防止強調月間 声かけ運動 キャッチフレーズ：その言葉 傷つけないか 再確認				
2 活動の趣旨	本校で毎月行っている生徒アンケート（八中SOSシート）では、「悪口を言われていると感じることがある」「意地悪をされていると感じる」と答える生徒が若干名見られ、その多くが言葉による「からかいや冷やかし」である。 そこで、生徒に、毎日何気なく使っている言葉で相手を傷つけていることはないか問いかけ、言葉について考えさせることで「からかいや冷やかし」を防止し、いじめにつながる要因を排除することが目的である。				
3 活動の概要	いじめ防止強調月間を11月に設定し、いじめゼロを目指した取組を生徒が考えた。 生徒会三役を中心に、いじめ防止強調月間のキャッチフレーズを考えて横断幕を作成し、朝の登校時間に挨拶運動と併せて、キャッチフレーズを掲げた。また、昨年度作成した「いじめゼロに向けた五箇条」の看板も掲げ、登校する生徒にいじめ防止の呼びかけ運動を行った。				
					
	【いじめ防止のキャッチフレーズを掲げる生徒】				
4 これまでの成果と考えられること	いじめ防止に係る具体的な取組は、2年目を迎える。昨年と比較するといじめを訴える件数は、減少傾向にある。これまでの「いじめゼロに向けた五箇条」の作成や小学校での小・中合同集会（26年度）、いじめ防止強調月間の設定などが、生徒のいじめ防止に対する意識改革につながっている。 また、こうした生徒の自主的な取組によって、教職員のいじめに対する意識も高まり、気になる生徒への即時面談や職員間での共通理解も図られている。				
5 今後の課題	短期間の取組で終わらせず、日常的にも生徒や教職員がいじめ防止を意識できる環境づくりが求められる。長く地道な取組を継続して、小さな成果を積み重ねていきたい。 また、中学校での活動を小学校にも広げて、小・中が連携していじめ防止に取り組むことで、より効果的な取組を実践していくことや、学校での取組を家庭や地域にも知らせ、学校と共にいじめ防止の意識を高める活動を展開していくことが今後の課題である。				

学 校 名	大館市立東中学校	児童生徒数	4 2 9 人	学級数	1 8
1 活動名	学年討論集会 ～ネットトラブル・ネットの使い方について話し合おう～				
2 活動の趣旨	学級や学年において、学校での諸問題や進路に関する内容について、互いの意見を伝え合ったり、討論したりする活動を通して、立場の異なる意見を理解し、視野を広げたり、物事の考え方や進路に向かう態度を高めたりする。				
3 活動の概要	(1) 活動実施日 平成27年1月30日（金）4・5・6校時 *今年度は、いじめ討論集会を平成28年1月27日（水）に実施予定 (2) 参加生徒（H26年度） 1学年・・138名 2学年・・125名 3学年・・141名 計404名 (3) 活動内容 ① 生活委員長が拡大執行委員会でネットの使い方やいじめに発展する可能性のあるトラブルなどについて話題を提起した。 ② 拡大執行委員会で自分たちの意見を出し合い、話し合う中で、この問題を全校に投げかけるために、全校朝会で問題提起することにした。 ③ 全校朝会で「生活委員会」と「生徒会執行部」がタイアップして、スマートフォン等についてのアンケート結果や過去数年分のトラブル例、使い方についての生徒の悩みなどを提示した。そして、「自分たち自身の問題を自分たち自身でしっかり考えていきませんか？」「今、私たちにできることは、どんなことなのかをみんなで考え、実行していきませんか？」と呼びかけ、問題意識を高めた。 ④ 学級討論会の実施 全校で、学級ごとに「使い方」「時間」「いじめ・トラブル（書き込みの表現の仕方）」の三つの課題について、これからどうしていくべきか、またどのように向き合っていくべきかを話し合った。完全に結論は出さずに、学級で出された意見を、次に行われる学年ネット討論会で、更に話し合うことにした。 ⑤ 学年討論会の実施 三つの課題について、学年全体で、いじめにつながるようなトラブルを未然に防いだり、健康を害したりすることのない使い方はどうあるべきかなど、自分たちの問題として解決していくための話し合いを行った。 ⑥ 各学年で話し合った内容を拡大執行委員会で再び議論し、「東中三大宣言」（宣言1：時間を守って活用しよう！ 宣言2：上手に効率的な使い方をしよう！ 宣言3：親しき仲にも礼儀あり！）を決定した。それを全校に公表し、自分たちの課題を、自分たち自身で解決していくための合い言葉とした。また、生徒会代議員が、三大宣言の具体的な行動を示したプリントを作成し全校生徒に配付した。宣言3については、「悪口や他人の話題は厳禁です。誰かを傷つけることはしません。相手のことを考えて使用します。」などのネットによるいじめ防止の内容が含まれている。				
4 これまでの成果と考えられること	私たち教師の立場から指導する内容がたくさんあるものの、生徒自身が自分たちで話し合い、自分たちで決定し守っていくという流れの中に、教師主導の指導では変えにくい、生徒の内面的な変化をもたらすことができた。その後、大きなトラブルやいじめにつながるようなことはなく、今年度行ったアンケートでは、「しっかりとルールや三大宣言を守っていきたい。」という内容のほかに、「表現の仕方については、今まであまり考えていなかったが、あの話し合いから、この表現でよいのか読み返したり、気を付けたりするようになった。」「悪口を書こうと思わなくなった。」「今、本当に送る必要がある内容なのかを考えるようになり、この内容なら送らなくてもいいかなと思えることが増えた。」という内容の記載も増えるなど、生徒の意識が高まってきている。				
5 今後の課題	今後も、いじめやネットについての話題を取り上げたり、拡大執行委員会で、宣言の内容が、現状や実態に合っているのかを見直したりしていく活動が必要であると考えている。				



たくさんの意見が出された討論会

学 校 名	潟上市立天王中学校	児童生徒数	2 9 7 人	学級数	1 1
-------	-----------	-------	---------	-----	-----

1 活動名 人と人との信頼関係を築くための生徒会活動の実践

2 活動の趣旨

いじめの温床となる人間関係の希薄さや他人への無関心といった状況を改善するとともに、自己有用感や集団への所属感を基にした生徒間の信頼関係の構築を目指す。

3 活動の概要

本校では、平成25年度に全校生徒参加による臨時生徒総会の場において、いじめの根絶・防止を目的とした「天王中学校いじめゼロ宣言」を採択・署名して以来、「いじめはぜったに許されないことである」との共通認識のもとで、継続していじめの未然防止に努めてきた。

この宣言に謳われている行動指針の具現化のため、いじめの温床となる人間関係の希薄さや他者への無関心を改善し、生徒間の信頼関係を構築することを目指して生徒会執行部を中心に次のような生徒会活動を設定し、実践した。



【月例で互いにありがとうの気持ちを伝え合う「ありがとうの樹」の活動】

○活動内容

- ①互いに感謝の気持ちを伝え合う機会を設ける。（「ありがとうの樹」の活動）
- ②校舎など公共物を大切にしようとする気持ちを育む機会を設ける。（「Cleeeeean day」の活動）
- ③校舎内に元気で自然なあいさつの輪を広げる。（「朝のあいさつ運動」の活動）
- ④自分たちの学級の様子を自己評価し、その結果から学級の短期目標を設定する。
（「天中ペンタゴンⅡ」「学級討議」の活動）
- ⑤「生活・学習評価表」の機能を活かして、授業に臨む姿勢を整える。
（「生活・学習強調週間」の活動）
- ⑥各専門委員会と連携し、生徒自身の手による集会活動を充実する。（「きずな集会」の活動）

4 これまでの成果と考えられること

互いの優しさや親切な行いに対して素直に感謝の気持ちを伝え合ったり、努力の跡を認め合ったりする活動を継続することで、温かみのある人間関係を育むことができた。

また、生徒自身の手による生徒会活動の機会を充実させたり、自分たちの学校生活を振り返る活動を設けたりする取組を通して、「自分たちの学校は、自分たちで良くしよう」とする意識を高めることで、いじめの未然防止がなされていると考える。

5 今後の課題

肯定的な自己理解に基づいた望ましい人間関係を育み、互いの存在を認め合いながら諸活動に取り組もうとする生徒の育成を目指すためには、様々な仕掛けづくりに継続して取り組む必要がある。P D C Aサイクルの機能を活用して、活動の効果について評価し、改善に努める必要がある。

学 校 名	潟上市立羽城中学校	児童生徒数	270人	学級数	13
1 活動名	羽城中学校校区児童会・生徒会連携による「あいさつ運動・いじめゼロ運動」				
2 活動の趣旨	中学校生徒会が中心となり、中学校区の小・中学校が合同で「あいさつ運動」や「いじめゼロ運動」を行うことにより、学区全体で心のかん養を図るとともに、小・中学校間で中1ギャップの未然防止や心を繋ぐ取組の充実を図る。				
3 活動の概要	(1) 活動時期 ・ 8月19日 第1回小・中連携研修会 生徒指導部会で、活動の具体について検討 ・ 11月10日 飯田川小に羽城中生徒会執行部が出向き、あいさつ運動・いじめゼロ運動を実施 ・ 11月25日 大豊小に羽城中生徒会執行部が出向き、あいさつ運動・いじめゼロ運動を実施 ・ 1月 8日 第2回小・中連携研修会 生徒指導部会で、活動の反省と今後の計画等について検討 (2) 参加児童生徒 羽城中学校区小・中学校児童生徒 ・ 羽城中学校生徒会執行部 9名 ・ 飯田川小学校児童 205名 ・ 大豊小学校児童 265名 (3) 活動内容 ・ 各小学校の玄関前で小学生と中学生と一緒にあいさつ運動 ・ 小学校体育館で集会 ①あいさつは心を繋ぐ合い言葉であり、心がつながればいじめは無くなっていくという趣旨の寸劇 ②標語の作成についての提案及び標語募集の呼びかけ				
4 これまでの成果と考えられること	・ 小学校からは、この運動をきっかけにして児童が元気にあいさつをするようになったとの感想があった。 ・ 中学校生徒会では、やがて後輩となる小学生たちに、どのようにしたら運動の趣旨を理解してもらえるか、小学校での継続した運動になっていくかなどを真剣に考えることで、自分たちの活動について振り返り、今後の活動のモチベーションを上げるよい機会となった。 ・ 各小学校からは、各学年の様子を中学校へ伝えたり、中学校生徒会へお礼の手紙を書いたりするなど、中学校からの一方通行の取組ではなく、双方向の取組にすることができた。				
5 今後の課題	・ 今回は11月のみの実施となったが、時期や回数等について、各校と連携を取りながら長続きする取組となるように工夫をしていく必要がある。 ・ 今回の取組を踏まえ、今後も継続した取組となるように小・中連携研修会等で工夫改善を図っていく必要がある。				



【羽城中シンボルキャラクター
「ミチル君」も運動に参加】

学 校 名	にかほ市立仁賀保中学校	児童生徒数	309人	学級数	13
1 活動名	全校縦割り活動(運動会)を通した絆づくり ～無くなることのない永遠の絆～				
2 活動の趣旨	本校では、学校行事「春の運動会」は、企画から準備・運営・当日の進行にいたるまで、生徒会主導で行っており、そのねらいを「全校・学年・学級の絆を深める」と設定している。また、秋田県の少人数学習推進事業により全学年が1クラス増の4クラスとなったことで、昨年度から全校縦割り活動を取り入れ、生徒間で協調・協力し合い、相手を思いやりながら活動し、全校・学年・学級間の豊かな人間関係を育んでいる。この取組を通して、いじめの未然防止につなげていきたい。				
3 活動の概要	運動会のねらいとして、特別活動のねらいである「集団活動の充実を図るとともに、協調・協力していこうとする態度を育てる」を設定し、生徒会執行部を中心とした運営の他に、団別活動(全校縦割り活動)の時間を設けた。 (1) 事前の活動 運動会のテーマの決定やポスター、プログラム作り、用具やライン引き、テント設営など、九つの生徒会執行部ごとに、学年の垣根を越えて役割分担して準備を行った。団別活動としては、初めて参加する1年生が各団の上級生の応援練習の様子を見学に行き、自分のクラスの応援に生かすことができるように交流する姿が見られた。 (2) 当日の活動 進行のアナウンスや繰り出し、順位札の配付や得点集計なども異学年集団である生徒会執行部が行った。また、全種目の総合得点を団別に争うため、学年の垣根を越えて、他学年を懸命に応援する姿が見られた。閉会式後には団別の解団式の時間を設け、心の交流を図った。団によっては、1・2年生が3年生一人一人の名前を記したプラカードをつくり、これまでの活動に感謝を込めて、エールを送っている姿も見られた。 (3) 事後の活動 運動会での全校縦割り活動の様子を道徳や特別活動の時間の題材として取り入れ、心の醸成を図っている学年があった。また、子どもが記述した運動会の振り返りには「来年は僕たちが今年の3年生のように後輩を引っ張っていきたい」という感謝と決意を読み取ることができる文章が多くあった。さらに、日常的に下級生に声を掛ける上級生の姿も多く見られ、秋の文化祭合唱コンクール練習では、上級生の練習ぶりを団別に見学し、模範にしようとする光景も見られた。学習面においても、生徒会学習部主導で全校一斉テストを団別の合格率で競うなど、全校縦割り活動を意識した取組を行っている。				
4 これまでの成果と考えられること	生徒たちは、異学年交流活動を通し、自己存在感・自己有用感を感じながら生き生きと活動できるようになってきた。下学年の生徒は上級生の姿を模範として、自分たちも頑張らなければならないという気持ちをもてるようになった。また、上級生は、学校生活の中で先輩としての責任を果たそうと努力する姿が随所に見られ、生徒会活動が活性化している。 これまでの活動によって、互いの存在を認め、尊重する気持ちの醸成につながっており、より一層生徒の絆が深まり、互いを思いやりながら生活を送っていると感じる。その結果がQ-U検査や学校生活アンケートに現れている。				
5 今後の課題	全校一斉テストなどで、全校縦割り活動の意識が持続してはいるが、現時点での全校縦割り活動の主な機会は運動会にとどまっている。今後は、全校縦割り清掃や全校縦割り給食など、日常の生徒会活動にも取り入れる工夫を行い、実践を積み重ね、心のつながりを更に深め、思いやりのある行動を増やしていきたい。				



1・2年生から3年生へのお礼のエール(解団式にて)

学 校 名	仙北市立角館中学校	児童生徒数	300人	学級数	13
-------	-----------	-------	------	-----	----

1 活動名 「心力・体力・知力」を高める ～ 人間関係づくりによるいじめの未然防止 ～

2 活動の趣旨

授業や行事等、学校の教育活動全体を通して、教育的予防の生徒指導を推進する。居場所づくりと絆づくりを行うことで、生徒指導の機能を高め、自己有用感や自己指導能力が育まれる授業づくりや集団づくりを通して、いじめの未然防止を図る。

3 活動の概要

(1) 学び合い、高め合う授業づくり

主体的な学びと共同の活動を通して、生徒同士の絆づくりが広がるように、学校生活の大半を占める授業を人間関係づくりの基本とした。「聴く、つなぐ、学び合う」をキーワードに、全クラスの座席を「コの字型配置」とし、全教科で男女4人組による学習活動を設定した。互いに話し合ったり聴き合ったりすることで、生徒同士が「自分や相手のよさ」に気付き合うことができるようにした。

(2) ミニ学年集会の実施

週に一度を基本に、朝の時間帯にミニ学年集会を開き、集団の前で生徒が交代でテーマスピーチや感想発表を行うことによって、他者に認められる機会や自己存在感を味わう機会を設定した。

(3) 生徒会活動の活性化

あいさつ運動（執行部・生活交安委員）や学習規律の向上を目指したラブリーチェック（学習委員）、裸足の清掃（整美委員）、5分間走（体育委員）等、1日の学校生活の多くの活動を生徒がリードしていくことで、自分たちの生活を自分たちで律していく風土づくりを進めた。

(4) 仙北市子どもサミットの活用（小・中連携）

本校生徒会執行部の提案で、角館地区の小・中学校において、中学校の定期テストの時期に「ノー・ゲーム&スマホデー」を共同実施したり、角館地区内の小学校に赴き、校門であいさつ運動を行ったりした。

4 これまでの成果と考えられること

学校生活の大半を占める授業を中心とした「聴く、つなぐ、学び合う」活動によって人間関係づくりを進めてきたことで、10月末に行われた授業研究会では、参観の先生方から「友達の意見も肯定的に受け止めている」「生徒たちの表情や反応がよく、人間関係がうまくつながっている」というような感想を数多くいただいた。

このように、学校生活の各場面において共感的な人間関係が育まれてきており、自己存在感や自己有用感を得られる集団づくりが進められてきている。

5 今後の課題

日常の授業を基本とした教育的予防の生徒指導によって生徒個々の自己有用感を育みながら、肯定的・受容的な集団づくりを継続していきたい。また、既存の生活ノート「たぎつせ」を活用し、生徒個々と学級担任とが深いラポートを築き、生活の中で生じる小さなトラブルの芽を早期に発見し、即時対応によって、個や集団に対する治療的予防の生徒指導を並行して進めたい。そして「生徒と生徒、生徒と教師」の人間関係づくりをより深くし、いじめ等の問題について未然防止に努めていきたい。

こんな角中生を目指して

学び合い、高め合う生徒を育てる

めざす角中生の姿

私たちは **学び合い、高め合う角中生** を目指します

- 心を鍛えます**
『お互いのよい所を見つけて一人一人が輝いていく角中生』
 - ◎自分からあいさつをする。
 - ◎清掃などの活動に、協力しながら一生懸命取り組む。
 - ◎人の悲しみや痛みを分かろうとする。
- 体を鍛えます**
『健康的な生活習慣が身についている角中生』
 - ◎早寝・早起きをして、元気に登校する。
 - ◎5分間走に毎日取り組む。
 - ◎自分を表現し、何事にもあきらめずに取り組む。
- 頭を鍛えます**
『ねばり強く学習に取り組み、お互いを高め合う角中生』
 - ◎自分から求めて学ぶ。
 - ◎自分の言葉で考えを述べる。
 - ◎学ぶことから逃げない。
 - ◎作品を通して自分を表現する。

➡ **『地域を元気にする角中生』**

- ◎笑顔であいさつする。
- ◎地域に発信する。
- ◎地域行事に参加する。
- ◎ボランティア活動に参加する。



【互いの意見を尊重しながら進める話し合い】

学 校 名	仙北市立西明寺中学校	生徒数	5 8 人	学級数	4
-------	------------	-----	-------	-----	---

1 活動名 The Warmest Heart!! ～地域とのふれあいを通して～

2 活動の趣旨

本校が位置している仙北市西木町は、人々のつながりに温かさが感じられる地域である。しかし年々少子高齢化が進んでおり、子どもたちの存在自体が地域の宝であり、希望となっている。そのような中で、本校生徒会には、地域の学校として積極的に地域貢献していこうとする姿勢が脈々と受け継がれている。特に今年度は、生徒会テーマ「創造」のもと、新たな地域貢献を開拓するとともに、昨年度までの活動を見直し深化させてきた。地域の方々とのふれあいを通して生徒の心を耕し、いじめの未然防止につなげていくことが本活動の趣旨の一つである。

3 活動の概要

(1) 西中お招きプロジェクト（年間を通して）

各種激励会や校内体育行事の際に手書きのお便りを出して地域の方々をお招きした。校内陸上大会では高齢者介護施設から多くのお年寄りがお出でになり、声援を送ってくださった。

(2) フラワーロードー斉植栽（5／31）

国道105号線沿いにマリーゴールドの花を植える地域の行事に参加し、毎年地域の方々と一緒になって作業に取り組んでいる。

(3) 心のふれあい訪問（夏と冬、年に2回実施）

地域の一人暮らしの方を中心に訪問して交流を図ったり、除雪ボランティアを行ったりしている。今年度の夏は18世帯1施設を訪問した。一過性のものではなく継続したふれあいとなるように留意している。

（前年度訪問したお宅との交流、学校祭への招待、手紙のやりとりなど。）

(4) 戸沢氏祭りへの参加（8／17）

本地区の夏祭りである戸沢氏祭りに全校生徒が参加してお家行列の行進に参加したり、踊りを披露したりしている。楽しみにしている方が多く、たくさんの方に喜んでいただいている。また今年度は、「戸沢氏サミット」において生徒自作による寸劇「新説戸沢盛安」を演じ、楽しんでいただくことができた。



【心のふれあい訪問】

(5) 地区内全戸への学校祭の案内等（10／3）

地域との強い結びつきがあるおかげで、本校の学校祭「やまばと祭」を楽しみにして足を運んでくださる地域の方々が非常に多い。職場体験やふれあい訪問でお世話になった方々には当該生徒から案内の手紙を出している。また地区内全戸に案内を差し上げた。ご来場の方々からは「あの時来てくれた人だね」「おっきくなったごど」など声をかけていただき、結び付きを一層強めることができた。

(6) 地域の方と共に行うあいさつ運動

地域の少年保護育成委員の方々と共にあいさつ運動を行った。本校のあいさつについては、元来すばらしいと評価していただいているものであるが、大人の方々と共に行うことでさらにさわやかなあいさつを心がけることができた。

4 これまでの成果と考えられること

いじめ撲滅を願って、本校では「秋田わか杉っ子いじめゼロに向けた五か条」を毎日学級で音読する取組を行っている。毎日音読することで一定の抑止力は期待できているが、いじめ撲滅の根本は、いかに日常的に心のふれあいを体験できるかにかかっている。

心の温かさを体験した子どもは、周囲にもやはり温かく接することができるようになっていく。その意味で、地域の方々のなまり混じりの愛情あふれる言葉は、生徒にとって貴重な心の糧となっている。「来てけでありがど」「まだ頼むで」、活動後のアンケートからはそのような言葉をかけられて感動したと述べている生徒が多かった。生徒たちに愛情を注いでいただいたり、心の温かさを教えていただいたりしていることに、感謝の気持ちをもち取り組んでいきたい。直接的な指導ではないのでいじめ撲滅の効果を分析することは難しいが、各活動を通した生徒の変容を見ると心の成長を確かに感じ取ることができる。

これからも生徒会を中心に、一人一人が地域や地域の人々によって育まれているのだということが実感できる取組を進めていきたい。

5 今後の課題

「伝統」を「マンネリ」にしないために、毎年新たな気持ちで活動に臨み、生徒に動機付けを行っていく必要がある。また、ふれあいがさらに充実したものとなるように、諸活動の行い方を一層工夫していく必要がある。

学 校 名	湯沢市立湯沢南中学校	児童生徒数	334人	学級数	14
1 活動名	いじめ防止について考える『ほっとアイ集会』				
2 活動の趣旨	いじめはどの学校にも、どの子どもにも起こりうるという認識に立ち、「いじめは人間として絶対に許されない行為であること」「いじめられたと感じた人の気持ちを重視すること」を徹底し、望ましい人間関係を構築することの大切さについて考えることができる。				
3 活動の概要	【活動1】平成26年10月23日（木） (1) いじめに関する本校の現状説明 アンケートの集計結果、記述内容からわかったことを説明する。 (2) いじめに対する意見発表 各学年の代表者がいじめ防止について意見発表をする。 (3) フロアー生徒が発表に対する意見交換を行う。 【『ほっとアイ集会』で意見発表している様子】 アンケート結果の数値や記述された文章を「声なき訴え」と捉え、学校でもいじめに関する現状を知り、「いじめは許されない行為である」という意識を高めるために、いじめに関することについて考える『ほっとアイ集会』を開催した。いじめは、「いじめ人」「いじめられる人」「いじめを見ている人」の立場で考えることが大切であると、生徒たちは自分の思いを全校の前で存分に発表してくれた。 【活動2】平成27年2月13日（金） (1) 体験した嫌なことについて発表（2・3年生の代表者が発表する。） ＜内容＞①周囲の人の気遣い ②いじめ側といじめられる側の意識 ③いじめをなくすにはマナーやルールを守ることが大切 (2) 「いじめゼロを目指して自分がやれること」について意見交換をする。 「いじめをしない、させない、許さない」という意識を高め、全校生徒が「いじめゼロに向けて何ができるか」を考え、『行動宣言』として文章化した。 (3) いじめ防止標語コンクールの開催				
4 これまでの成果と考えられること	集会後の生徒の感想や生活の様子から、成果として次のことが挙げられる。 ①「いじり」を嫌な行動として捉え、生徒同士で気をつけようという意識が高まった。 ②いじめの特質や種類を確認することで、生徒自身が自分や身の回りの生徒の行動の様子を振り返ることができた。 ③日常生活の中で互いに「いじめゼロ」を意識しながら生活することができるようになった。 ④「やさしく話そう あたたかく聞こう」を各学年が行動目標として掲げ、評価活動を行いながら達成のために努力する様子が見られた。				
5 今後の課題	今回は全校集会という形でいじめ防止について考えたが、定期的に行っているアンケート等の結果を確実に活用し、生徒の実態把握をしっかりと行った上で、いじめゼロに向けての活動づくりを行っていく。				

【高等学校】

(中・高校生用)

秋田わか杉っ子 いじめゼロに向けた五か条

一 私たちは、いじめが人権を侵害する許されない行為であることを理解し、絶対にいじめを行いません。

二 私たちは、いじめを見過ごさず、友人や信頼できる人と力を合わせて、いじめの根絶に向けて行動します。

三 私たちは、思いやりの心を大切にし、他人の喜びや心の痛みをその人の身になって感じたり考えたりします。

四 私たちは、一人一人の違いを認め、自分も相手もかけがえない存在として尊重します。

五 私たちは、生活習慣や文化、価値観の異なる人々とも積極的に交流し、社会を支える一人になります。

学 校 名	秋田県立能代高等学校	児童生徒数	697人	学級数	18
-------	------------	-------	------	-----	----

1 活動名

スクールマナー集会におけるいじめ未然防止に向けた取組

2 活動の趣旨

全校生徒がそれぞれの目標に向かって主体的に取り組むことができる環境づくりを目指した「スクールマナー集会」を年度はじめに全校で開催する。集会では、生徒会執行部のプレゼンや演劇部の寸劇などにより、学校内外で守るべきルールやマナーを確認し、いじめ等の未然防止に取り組む。

3 活動の概要

「スクールマナー集会」

- ・挨拶の奨励
- ・整容の基準
- ・授業マナー・考査マナー
- ・図書館・視聴覚室・パソコン室・保健室の利用マナー
- ・職員室等で先生方に話しかける言葉遣い
(演劇部による寸劇)
- ・自動車送迎のルール
- ・校内における携帯電話のルール
- ・通学路での危険場所の確認
- ・道路交通法の確認 (演劇部による寸劇)
- ・携帯電話による書き込みや過度の使用による弊害 (演劇部による寸劇)
- ・日常生活で生じる可能性が高い、いじめの再現と検証 (演劇部による寸劇)



演劇部による寸劇

4 これまでの成果と考えられること

年度はじめに「スクールマナー集会」を開催することにより、高校生活を送る上で必要なマナーやルールについて、全校の共通認識が図られている。演劇部による寸劇では、携帯電話による掲示板への書き込みトラブルや、からかいなどのいじめといった普段の生活で起こり得る事案を題材としているため、リアリティーを感じる事ができる。また寸劇を見てから、パワーポイントによる、いじめの定義などの確認を行い、いじめに対する理解を深めている。

年度はじめの「スクールマナー集会」は、これまでの自分を見つめ直す、よいきっかけとなっているようで、ここ数年、いじめの訴えや認知件数はゼロであることや、他校も関係した、いじめに発展しかけた事案が、本校生の行動で解決するなど、確かな成果が出てきている。

5 今後の課題

いじめの訴えや認知件数はここ数年、ゼロであるが、定期的なアンケート等によるいじめの早期発見等への取組は必要であると考えている。また、スマートフォンなどの情報通信機器によるトラブルは今後、ますます複雑化していくことが予想される。教職員によるネットパトロールも行っているが限界もある。LINEなどのSNS上での誹謗・中傷は、生徒から訴えない限り、分からないのが現状である。今後も、「スクールマナー集会」を充実・発展させ、いじめの未然防止に向けた取組を進めていきたい。

学 校 名	秋田県立由利工業高等学校	児童生徒数	375人	学級数	12
1 活動名	風紀委員会の活動を通した、いじめの未然防止に向けた取組				
2 活動の趣旨	3年前から「由エスタンダード生活版『挨拶励行 時間の有効活用 整理整頓』」を掲げ、生徒会の各委員会の活動により、「地域に愛される由工」を目指している。中でも各クラスの風紀委員が直接生徒に働きかける活動を通して、いじめの未然防止に向けた取組を推進する。				
3 活動の概要	「各クラスの風紀委員による活動」 (1) 校門での挨拶運動 朝、校門で登校してくる生徒に対し、率先して挨拶を行っている。 (2) 遅刻指導 (1)の挨拶運動と併せて、遅刻の撲滅と、時間の有効活用を目指した遅刻指導を行っている。 (3) 整理整頓の徹底 「工業高校生は整理整頓が当たり前のスキル」をモットーに、SHRで教室ロッカー等の整理整頓を呼びかけ、必要に応じて改善指導を行っている。 (4) 放課後の巡視 放課後の校内巡視により、各クラス的环境整備の状況や放課後の生活状況の把握をし、必要に応じて改善指導を行っている。				
	 校門での挨拶運動				
4 これまでの成果と考えられること	(1) 校門での挨拶運動 職員による校門指導・声かけに加え、挨拶を通じた生徒による校門指導により、生徒間の挨拶が促されているようだ。挨拶による共感的人間関係が育まれていると考えられる。また、挨拶が「職員や来校者に向けたもの」というものではなく、「誰に対しても当たり前に行うもの」となっていることで、校内の雰囲気も良くなっている。これらの活動が生徒主体で継続して行われていることも成果の一つであると考えられる。 (2) 遅刻指導 風紀委員による遅刻指導により、遅刻数は激減している。生活習慣の改善などの成果が見られる。教員による声かけよりも、先輩・後輩・同級生の目や、声かけが生徒の意識を変えるきっかけとなっている。 (3) 整理整頓の徹底 身の回りの整理整頓を通し、学校は公共の場であるといった自覚を促し、集団生活のルールを守る姿勢が身に付けさせることができている。 (4) 放課後の巡視 紛失・盗難といった事故の未然防止や、目が届きにくい放課後の教室環境や生活状況の把握により、いじめの未然防止・早期発見につながっている。				
5 今後の課題	これまで、大きないじめの問題は起きていないが、ネット上での誹謗・中傷など、なかなか把握が難しい、いじめが潜んでいることも想定されるので、スマートフォンの正しい使い方やそれに潜む危険性について、生徒・職員ともに理解を深める取組を推進する必要がある。				

【特別支援学校】

学 校 名	秋田県立比内養護学校たかのす分校	児童生徒数	46人	学級数	11
1 活動名	中学部・高等部合同集会 たかのす分校はいじめゼロ！				
2 活動の趣旨	(1) 児童生徒会による企画・提案・運営を通して、よりよい人間関係を築いていくために必要な行動について考える。 (2) 異学年間の交流を通して、共感的な人間関係を構築する。				
3 活動の概要	委員会の活動において、いじめ撲滅活動について話題になり、児童生徒会でいじめ撲滅集会を開くことになった。そこで、中学部、高等部の学部集会を合同で開催し、いじめについて発表することにした。内容は、劇を見て、いじめかいいじめでないかを考え発表する活動と、児童生徒会で考えた「いじめ撲滅五カ条」を配付し、みんなで読み上げる活動とした。いじめについての劇の内容は、児童生徒会で話し合い、演じるのは教師であった。いじめ撲滅五カ条は児童生徒会で話し合い、印刷したものを配付し、全員で読み上げた。 「教師の劇を見て、いじめかどうかそしてその理由は何か考えました」 いじめ撲滅五カ条 — きたない言葉は使わない — 相手の気持ちを考えよう — かげ口、悪口は言わない — 暴力は絶対にしない — いじめを見たり聞いたり体験したら誰かに相談 みんなで助け合おう たかのす分校はいじめゼロ				
4 これまでの成果と考えられること	いじめについての劇を見て、いじめかいいじめでないか考える場面では、ほとんどの生徒が正解した。生徒たちからは「いじめられている役の先生がかわいそう」「いじめられている方がいじめと感じたらいいじめだ」などの意見が出た。高等部では、生徒が自主的に「いじめ撲滅五カ条」を教室に掲示する様子が見られた。				
5 今後の課題	児童生徒会でアンケートの実施や、呼びかけ、ポスター掲示などができればと考えている。 「いじめられている方がいじめと感じたらいいじめだ」という意見が生徒たちから聞くことができた反面、暴力や暴言だけがいじめであると認識している生徒も少なくない。児童生徒会の取組をきっかけにし、各学部や学級で日常的にいじめや、相手が嫌がる行動について考える機会を設定していく工夫が必要であると感じた。				

学 校 名	秋田県立能代養護学校	児童生徒数	91人	学級数	18
1 活動名	児童生徒会執行部 いじめ防止のための話し合い、ポスターの制作				
2 活動の趣旨	児童生徒会執行部の児童生徒が、生活目標を元にして、仲間と仲良く生活したり、いじめを防止したりするための方法について意見を出し合い、活動内容を考えて取り組む。				
3 活動の概要	児童生徒会執行部では、2ヶ月ごとの生活目標を決めて、全校児童生徒に向けた掲示物を制作している。11・12月の生活目標は「仲間と協力して活動しよう」と決め、その目標達成のために児童生徒会執行部で取り組むべき事項について話し合いを行った。				
4 これまでの成果と考えられること	仲間と協力して活動するためには、どんなことをしたらよいかについて意見を出し合った。児童生徒からは、「仲間と仲良くする」「困っている人を助けたり、声をかけたりする」「みんなで意見を言い合う」という意見が出された。 「仲間と仲良くするためには、いじめはいけない」という意見が多数の生徒から出た。「いじめは身の回りでは見られない」との意見があったが、過去にいじめられた経験がある生徒や、いじめられている友達を見たことがある生徒がおり、活動内容について具体的に考えることができた。 児童生徒会で話し合い、具体的に以下のような活動をすることを決定し取り組むことにした。 ① 「いじめは許されないこと」や「いじめを見たら先生に相談する」等の内容のポスターを制作し、校内に掲示する。 ② 昼の放送で生活目標を呼びかける。				
5 今後の課題	この目標は、本校で目指す児童生徒像「仲良く助け合う子」にも通じる。期間を限定せず、継続していく必要がある。また、全校の児童生徒に伝わるような掲示物の作成や放送の内容を工夫し、成果を得られるようにしていきたい。また、ポスターに記載する標語の募集も行い、全校の児童生徒でいじめ防止に取り組んでいるという意識を高めていきたい。				



【生活目標について話し合う生徒の様子】



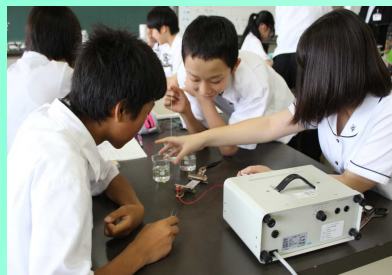
大館市立城西小学校



潟上市立天王中学校



大館市立東中学校



仙北市立角館中学校



湯沢市立湯沢西小学校



藤里町立藤里小学校



仙北市立西明寺中学校



大仙市立大曲小学校



由利本荘市立岩谷小学校



秋田県立由利工業高等学校



にかほ市立仁賀保中学校



秋田県立能代養護学校